

コニヒン

斗争季ニコース改題
宣伝局発行

第4号 文白

本館封鎖が全学の斗争の 結集点である!!

んどいくものでしかないのだ。こうしたことあるなら、我々は調査費計上阻止リMロ中間イキは、ラヤ理、農学部のストライキによりその全学ストへの対応を大きく切り替えてある。しかしその全学ストの内実を保証するものとしての本館封鎖に対してはその全般的な結集といふものがまだなされていない。本館封鎖は、我々の要求である对講議会団交、調査費計上決定白紙撤回を大学当局、学長講議会につきつけて

「一五日より展開されしる文自治会のストライキは、ラヤ理、農学部のストライキによりその全学ストへの対応を大きく切り替えてある。しかしその全学ストの内実を保証するものとしての本館封鎖に対してはその全般的な結集といふものがまだなされていない。本館封鎖は、我々の要求である对講議会団交、調査費計上決定白紙撤回を大学当局、学長講議会につきつけて

六月二〇日に評議会で決定された調査費計上が筑波移転にどうつもつてしる意味を再度用ひたにしむ。そのことにより我々の争の立脚点を明確にし戦力を強化していく必要があろう。今回の調査費計上は今年三月のマスタープラン中間答申と、来年三月に予定されているマスタープラン最終答申を結節するその物質的保證としてある。即ち、筑波問題に対する教授会の個別利害に立脚する不必要な説議（それは文学院部と初等部との対立などあらわれた）の結果としてあつた既日六月十日の「教育大として筑波に土地を希望する」いう説議が決定の延長線上にMロ答申がある。要にそのMロ答申をMロ答申に基づけてより完全な形にすべく調査費計上がもくろまれてゐる。海外・国内・環境を中心とする調査費は、本年三月のMロ中間答申に基くものとしてある。しかしあの中間答申の内容といふものはいかなるものであるのか。それは現在の研究教育体制、大学秩序への批判を欠落し、筑波研究園都市計画への批判から新たな大学の創意を、大学の解消をめざしていくといつて何れもつてしまひ。それがどこか二三十年を経ていつまでもある。政府独占の大学政策にあつぱりは要らざる

理農学生大会で長期スト体制を確立しよう!

トライキを出発としたこの斗争は、今や理農学部をも巻き込み全学ストへと發展せんとしている。我々の斗争の勝利への展望が、本館封鎖を軸とした長期全学ストにあることを確認し、早急にすぐての学生はその実現に向けて、更に斗いを前進させようではないか。特に教育学部の学友議会／執行部の無指導と斗争の歪曲を克服し共に固く連帯して大坂封鎖のさして手をねぎ。本日の学生大会に結集せんとしている理、農学部の学友議会／斗争が勝利するか、敗北するかは議者が、長期スト体制を確立するか否か、文の学生と共に本館封鎖に結集するか否かにかかっているのだ。一切の日和見主義、待機主義を排し議者がこの方向に向つてまっしぐに進まれることを斗争委員会は強く訴える。

六月二〇日に評議会で決定された調査費計上が筑波移転にどうつもつてしる意味を再度用ひたにしむ。そのことにより我々の争の立脚点を明確にし戦力を強化していく必要があろう。今回の調査費計上は今年三月のマスタープラン中間答申と、来年三月に予定されているマスタープラン最終答申を結節するその物質的保證としてある。即ち、筑波問題に対する教授会の個別利害に立脚する不必要な説議（それは文学院部と初等部との対立などあらわれた）の結果としてあつた既日六月十日の「教育大として筑波に土地を希望する」いう説議が決定の延長線上にMロ答申がある。要にそのMロ答申をMロ答申に基づけてより完全な形にすべく調査費計上がもくろまれてゐる。海外・国内・環境を中心とする調査費は、本年三月のMロ中間答申に基くものとしてある。しかしあの中間答申の内容といふものはいかなるものであるのか。それは現在の研究教育体制、大学秩序への批判から新たな大学の創意を、大学の解消をめざしていくといつて何れもつてしまひ。それがどこか二三十年を経ていつまでもある。政府独占の大学政策にあつぱりは要らざる

現れどこれが二三十年を経ても、本日も理農学生大会で長期スト体制を確立しよう！

理農学生大会で長期スト体制を確立しよう！